中期経営3ヵ年計画（2005年度〜2007年度）進捗状況

2007年11月8日

日本ゼオン株式会社

代表取締役社長 古河 直純
◆『企業の社会的責任 (CSR) 』を再認識し、社会から信頼され、社員も誇りに思える会社づくりを「スピード」「対話」「社会貢献」をもって追求する。

◆経営戦略と研究戦略を一致させ、ひとのまねをしない、ひとがまねをできない世界一の独創的技術で新事業を創造し、継続的に発展・拡大させる。
### PZ-3 連結業績目標の達成状況

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>売上高</td>
<td>2,314億円</td>
<td>2,631億円</td>
<td>2,816億円</td>
<td>1,460億円</td>
<td>3,000億円</td>
<td>2,700億円</td>
</tr>
<tr>
<td>営業利益</td>
<td>193億円</td>
<td>268億円</td>
<td>302億円</td>
<td>140億円</td>
<td>310億円</td>
<td>330億円</td>
</tr>
<tr>
<td>高機能材料事業営業利益構成比</td>
<td>45%</td>
<td>38%</td>
<td>32%</td>
<td>33%</td>
<td>42%</td>
<td>55%</td>
</tr>
<tr>
<td>ROE</td>
<td>10.2%</td>
<td>17.6%</td>
<td>16.4%</td>
<td>12.4%</td>
<td>15.1%</td>
<td>16%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

*ROEの2007年度上期実績は、上期当期利益を2倍して年度ベースに換算したものです*
連結売上高推移
（単位：億円）

連結営業利益推移
（単位：億円）

セグメント別上期連結業績推移

PZ-3 スタート

連結営業利益
上期5年連続の増益、さらに5年連続の過去最高益更新
エラストマー素材事業
セグメント
【2007年度上期総括】
・原油、ナフサ等の原材料価格の高騰
・自動車、タイヤ等主要用途の需要は好調に推移
・海外市場における採算重視の販売政策を継続
・Σζ活動（コストダウン活動）を推進
事業環境の変化

原油、ナフサ
($/bbl)

為替

為替(¥/$)

原油、ナフサ

為替

為替(¥/$)

04/01 04/03 04/05 04/07 05/01 05/03 05/05 05/07 05/11 06/01 06/03 06/05 06/07 06/11 07/01 07/03 07/05 07/07 07/09

PZ-3 サタート

PZ-3 ゼオン中期経営3ヵ年計画 進捗報告
高機能材料事業
セグメント
【2007年度上期総括】
・高機能樹脂関連については、売上高を伸ばしたものの、販売価格の低下と研究開発費の増加等の影響で増収減益。
・情報材料関連、化学品関連は増収増益。
ゼオン中期経営計画進捗報告

戦略製品の売上高推移（上期）

ZEONEX®、ZEONOR®
光学材料（光学フィルム、拡散板、レンズ等）
ゼオローラガス

※何れも2001年度上期を100とした場合
ゼオノアフィルム®新工場

工業用地（6.99ha）
敷地面積：約170,000㎡
建物延床面積：約22,000㎡
階層：鉄骨造3階建
建屋完成：2007年4月末

（株）オプテス
富山工場
氷見製造部
07年12月末本格稼動
新製品ZDフィルム上市

ZDフィルム（斜め延伸位相差フィルム）
※分子配向軸がフィルムの長手方向または幅方向と異なるフィルム
ZDフィルムの特徴

1. 世界で初めての生産技術（競合が無い）
2. 全ての液晶モードでロールツーロール貼合が可能
   従来、遅相軸が偏光軸または吸収軸と一致する一部の液晶
   モードでしかロールツーロール貼合は可能ではなかった
3. ロールツーロール化で、偏光板保護膜が不要になる
   と共に、バッチ貼合プロセスが不要となる
   ➡️ 大幅なコストダウンになる
4. 偏光板の究極の薄肉化が可能となる
   ➡️ 携帯電話市場で大きな魅力
5. 従来のゼオンノア原反市場以外の展開も可能となる
ZDフィルムの用途展開

高機能材料

ZDフィルム

液晶ディスプレイ

半透過型・微反射型LCD
（1/2波長板、λ/4波長板）

（透過）円偏光型VA-LCD
（1/4波長板）

タッチパネル
（1/4波長板）

有機ELディスプレイ
（1/4波長板）

STN-LCD

1/4波長板＝円偏光板
拡散板売上高推移

（2007年5月17日 説明会資料より）

※2005年度第3四半期を100とした場合
「超薄型」TV商戦火ぶた

国内電機メーカーの「超薄型」テレビ

<table>
<thead>
<tr>
<th>表示方法</th>
<th>液晶</th>
<th>32インチ</th>
<th>3.5センチメートル</th>
<th>10.9キログラム</th>
<th>23万円</th>
<th>0.72インチ当たりの価格</th>
<th>発売時期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>日立製作所</td>
<td>液晶</td>
<td>52</td>
<td>2</td>
<td>25</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>2007年12月</td>
</tr>
<tr>
<td>シャープ</td>
<td>液晶</td>
<td>42</td>
<td>3.7</td>
<td>20-22 (推計)</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>2008年3月</td>
</tr>
<tr>
<td>日本ビクター</td>
<td>液晶</td>
<td>11</td>
<td>0.3</td>
<td>2</td>
<td>20</td>
<td>1.82 (メーカーの希望小売価格)</td>
<td>2007年12月</td>
</tr>
<tr>
<td>ソニー</td>
<td>有機EL</td>
<td>32</td>
<td>9.1</td>
<td>15</td>
<td>21.8</td>
<td>0.69 (店頭での実勢価格)</td>
<td>2007年8月</td>
</tr>
</tbody>
</table>

ソニー、有機EL0.3センチ

日立製作所は三日目、厚さ・重量の液冷スピーカー、ウエアブルTVを発売。来春以降、ソニー、シャープが商品化をする予定で、薄型テレビの普及がかかる可能性がある。

出典：2007年10月24日 日本経済新聞
その他の状況
研究開発戦略

1. 経営戦略と研究開発戦略の一体化
2. 研究開発速度のスピードアップと成功確率の向上
3. テクノロジープラットフォームの戦略的強化

『狙いの5分野』

記録 コンピュータ 表示 エネルギー 通信
【2007年8月3日】
当社は、内閣総理大臣表彰制度として2005年に創設された「ものづくり日本大賞」において、「製品・技術開発」部門で経済産業大臣賞を受賞しました。

「ものづくり日本大賞」は、我が国の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく寄与してきた「ものづくり」を継承・発展させるため、ものづくりを支える人材の意欲を高め、その存在を広く社会に知らしめるため、2005年に創設された表彰制度で、今回が第2回となります。「製品・技術開発」部門では、高度な技術的課題を克服し、従来のない画期的な製品・部品や生産技術の開発・実用化を実現させた個人もしくはグループが受賞の対象となります。
研究拠点の整備・拡充

精密光学研究所（高岡）
精密光学研究所機械加工棟（高岡）
化学品研究棟（米沢）
メディカル研究所（高岡）
総合開発センター10号館（川崎）
総合開発センター（川崎）
1. 生産革新による安定・安全生産の徹底追求
2. グループ力を結集したコストダウンの実践

累積コストダウン効果額

(億円)

目標 実績
2005年度
目標 実績
2006年度
目標 見込
2007年度
CSR戦略

社会から信頼され、社員もゼオンに働く誇りを感じる会社の実現

2007年7月  化学物質の大気排出量削減のための設備増強
川崎工場に新型産業廃棄物施設（乾留ガス化炉方式焼却炉）を設置。
従来施設と比べ、処理する産業廃棄物の量はほぼ同量だが、有害物質濃度は10分の1に、排ガス量は概ね60%に削減される。

「地球にやさしい都市型工場」をめざした環境安全の取り組み
企業価値向上のためには

企業価値向上
CSR

特別社員処遇制度
発明報奨制度
意欲

内部統制強化
自己株取得
信頼

新製品開発
積極的増配
飛躍

革新的生産技術導入
高付加価値製品シフト
安定・安全

老朽化更新
安定供給体制整備
安心

新製品開発
地域共生活動
自己株取得

コンプライアンス体制整備推進
...

スピード
対話
社会貢献

PZ-3

PZ-3 ゼオン中期経営3ヵ年計画 進捗報告
スピード
対話
社会貢献
本資料に掲載されている当社の計画、見通しなどは現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は様々な要因により、異なる結果となる場合があります。